

平成29年度の学校評価結果

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立			
教育目標	”感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成			
今年度の学校経営方針	本年度が星城高等学校創立55周年を迎えることを踏まえ、創立者の高邁な「建学の精神」に鑑み、星城教育の原点に立ち返る。規律を重んじる学校生活の中で、主体的・対話的に深く学び、逞しい体力を身に付け、次代を担うにふさわしい人間味あふれる青年の育成を目指す。そのために「四つの柱」(礼節、進学、スポーツ、国際交流)と「四つの保証」(学力、進路、規律、安全)を掲げて、教育活動を推進する。			
今年度の重点目標	I 規律ある学校生活の定着 II GTZ等の改善 III アクティブ・ラーニングの推進 IV SGH活動の推進 V 国際交流の活性化 VI 特別活動の活性化 VII 安全・健康の保持増進 VIII キャリア教育の推進			
重点目標	評価項目	担当	具体的方策<数値目標> 実施状況(◎実施したこと *今後の改善点)	
I 規律ある学校生活の定着	挨拶・身だしなみに対する意識の向上	第1学年	◎副担任4名による登校時の挨拶指導で、挨拶とともに身だしなみについても生徒が確認するよう声をかける。 ◎授業での号令に「服装を正して」という言葉を入れるよう統一する。 《服装頭髪検査における継続指導該当者が全体の4%以内》	◎副担任4名による朝の校門指導。声がけにより、服装が乱れていてもすぐに直させることができた。8時45分間際で駆け込む生徒もほとんど見られなかった。 ◎級長・副級長会にて号令の統一を指示した。 *一部のクラスを除いて徹底されなかった。 *担任・教科担当(非常勤含む)からも号令の統一を促す必要があった。 服装頭髪検査継続指導該当者が年間で全体の2%弱であった。
	生徒主体の活動		◎級長・副級長の中から学年リーダー・サブリーダーを選出し、学年行事の運営や、集会時の整列指示・身だしなみの確認を促す。 ◎1学年での級長・副級長会を実施し、上記内容が円滑に行われるよう、話し合いを行なう。場合によっては助言を行う。 《学年集会・式典において、11クラス中8クラス以上がリーダー・サブリーダーの指示で身だしなみを整えた上で整列できる》	◎1学期2回、2学期2回の級長・副級長会を実施した。彼らには円滑に整列するための方法と実施上の問題点などを振り返り、集会・式典ごとに工夫して行うようにした。 *1年生は歩道橋を通っての移動のため他学年に比べて少々時間がかかってしまったが、級長・副級長がリーダーの指示でよく動き、他クラスの整列にも協力できるようになった。
	欠席・遅刻・早退をゼロに近づける	仰星コース 第1学年	◎日頃の担任からの健康管理についての呼びかけや、生徒面談を積極的に行うことにより、生徒のメンタルケアを意識した指導を行う。 《年間出席率99%以上》	◎各学期に担任による個人面談を実施し、進路指導及びメンタルケアを心がけて指導してきた。3学期末までの1年生の出席率は97.3%で達成されなかった。中学次より長欠の傾向を持つ生徒が数名あり、出席率の低下につながった。 *今後も、面談を通じて個別のケアを心がけながら、全員が元気に登校し学習成果を上げる指導を継続していく。
	規則正しい生活習慣	仰星コース 第2学年	◎朝朝学習や朝学習で学習室を利用させるなど、生活管理に基づいた学習習慣を身につけさせ、欠席・遅刻・早退ゼロを目指すようHRで指導する。 ◎時間を有効利用して学習時間が確保できるよう、生活記録の点検指導を行う。 《欠席・遅刻・早退ゼロ週間の達成7回以上》	◎4月より生活記録を毎日記入させ、日々の振り返りを行わせた。生徒のコメント一つ一つに担任がコメントを返すことで、学習時間の確保、生活習慣の改善につなげることができた。全体の欠席・遅刻は少なかったが、ゼロ週間の達成は2回で、目標には達しなかった。
	遅刻、欠席を減少させる	仰星コース 第3学年	◎朝のST前10分間を用いて小テスト等を実施し、遅刻者減少に努める。 ◎各学期の設定月(5月と10月)における遅刻者数(平均値)を学年全体で集計し、生活指導に生かす。 《遅刻者数が延べ8名以下》	◎理系クラスでは、12月末までST前の10分間に全118回、英単語や数学の小テストを実施した。 ◎文系生徒に対し、個人面談の頻度を増やし進路指導を充実させ、生活指導に生かした。 5月の遅刻者総数延べ8名、10月は38名で50%。 *定期テスト直後の週で遅刻者数が増加したため、今後は解説プリントや復習テストを活用して改善を図る。
	規則正しい生活習慣の確立	生徒指導部	◎ST、LHR、学年集会、生徒指導部講話等で生活習慣の大切さを理解させ、基本的な生活習慣の確立を図る。 ◎交通事故との関連も含めた指導で、8時40分登校の徹底を図り遅刻防止に取り組む。 ◎遅刻の多い生徒に対する個別指導を行う。また、家庭連絡の上、協力を依頼する。 ◎毎日の校門指導で、明るい挨拶と校門の一礼の率先指導を行なう。 ◎生徒指導カードで朝の状況等を学年へ迅速に伝えて連携指導をする。 《年間欠席4500、遅刻2000以内》(28年度欠席5329、遅刻2560)	◎STやLHR・学年集会、生徒指導部講話等で携帯電話・タブレット等でのSNSやラインなどによる生活習慣の乱れや犯罪・トラブル防止に努めた。使い方の指導等を実施したり、長期休業中には、学園だよりを配布したりするなど基本的な生活習慣の確立を促した。 *遅刻の多い生徒の指導では、保護者への報告や協力依頼を強化する。 ◎年間の状況は欠席4650、遅刻は3260である。 ◎毎日の校門指導では明るい挨拶と校門の一礼の率先指導をした。多くの生徒は挨拶ができるが校門で一礼が不十分であった。 *教員から挨拶を率先して行う。校門の一礼については、なぜするのかについての指導が必要である。
	制服の正しい着用		◎ST、LHR、学年集会、生徒指導部講話、服装頭髪検査、校門指導等で制服の正しい着用の必要性の理解と徹底を図り、全職員で生徒の健康や安全を守る。特に女子生徒のスカート丈を重点指導する。 ◎注意指導しても改善されない場合は、家庭連絡の上、段階的な指導を行う。 《制服の乱れをなくす》	◎制服の正しい着用の指導を行った。また、服装頭髪検査でも徹底を図った。朝や帰りの校門指導で注意・指導を実施した。校門での指導では、服装面等で良くない生徒を生徒指導カードを用いて学年へ伝え、連携指導を実施した。ネクタイについては以前と比べ良くなってきているが女子のスカート丈が改善されない。 *女子のスカート丈や化粧・ソックスなど女子指導が課題であり、教員が意識改革をして職員全体で取り組んでいく必要がある。
	挨拶と身だしなみの向上	仰星コース 生徒指導部	◎生徒指導部による登校指導・下校指導を通して身だしなみを指導する。 ◎服装頭髪検査も職員で一体感を持って取り組み、一度で合格するように指導する。 《3学期の服装頭髪検査不合格者が全体の4%以内》	◎校門指導やST等での身だしなみ指導を実施した。服装・身だしなみについては良好である。3学期の服装頭髪検査不合格者が全体の8%で目標は達成されなかった。 *次年度に向けては、生徒たちがより自発的・自主的に身だしなみを整えられるように教員間の連携指導を密にしていく。
	時間を意識した行動		◎登校指導を通して、時間に余裕を持った登校を促す。 ◎集会を通じて改善すべき点を指摘し、時間を意識した行動がとれるよう個々に生徒の指導を行う。 《遅刻者延べ150人以内》	◎時機を見て校門指導を実施し、自転車通学者に対する指導、遅刻者に対する指導を行った。(遅刻者延べ211名。) *次年度に向けて校門指導の回数を増やしていきけるように改善する。
	心を込めた作業		◎清掃中の巡視を行ない、清掃監督者と連携して清掃場所への速やかな生徒移動を促すとともに、時間を有効に使った清掃を行う。 ◎ボランティア清掃を奨励し、積極的に参加するよう生徒に働きかける。 《ボランティア清掃参加率85%以上》	◎ボランティア清掃については、担任の指導もあり、参加希望者は100%であった。残念ながら雨天のために中止となった。 *雨天だった場合には、日程の振り替えを調整してボランティア清掃が実施できるようにする。

II GTZ等の改善	学習習慣の定着・学習意欲の向上	第1学年	<p>○スタディーサポートを積極的に活用する。</p> <p>①事前シートを用いた到達目標の設定と学習計画立案に取り組ませる。</p> <p>②振り返りシートを用いて自分の学力状況を把握させ、次回への取組に繋げる。</p> <p>《担任による生と面談を年間4回以上実施する。特進・アストGTZ:D→0% C→20% B→67% 普通GTZ:D→50% C→35%》</p>	<p>◎スタディーサポート活用Bookの使い方をプリントにて配布し、事前学習・事後学習を行わせた。また、スタディーサポート向けClassiの事前学習動画・事後学習動画、Webテストを長期休業中を含めて配信し、学習習慣の定着・学力の向上に繋げた。Classiでは自分の成績や弱点が確認でき、最適な練習問題も提供されるので、効果があった。</p> <p>*学習動画やWebテストに取り組んだ生徒の割合がまだまだ低く、入学直後からの徹底指導が必要である。</p> <p>第2回スタディーサポート結果 特進・アストGTZ D→6.4% C→25.6% B→61.5% 普通GTZ D→49.5% C→39.2%</p>
	学力の保持・増進	仰星コース 第1学年	<p>○自主学習プリントを配布して、朝の学習を推進する。</p> <p>《GTZを保持または向上させる生徒が学年の80%以上》</p>	<p>◎朝の学習プリントの配布は、100回以上行った。</p> <p>*1学期と2学期の進研総合学力テストでは、GTZを保持または向上させた生徒は62%であったので、今後も週末課題等を指導し学習を促す方を継続して実施していく。</p>
	Aゾーンの生徒の増加	仰星コース 第2学年	<p>○スタディーサポートや進研模試結果から学力を分析し、各生徒が学力を把握できるようにする。</p> <p>○過去問に取り組ませるとともに、生徒に積極的に声をかけ、モチベーションを上げる。</p> <p>○スタディ・サプリを活用した家庭学習が定着するよう指導する。</p> <p>《Aゾーンが65%以上》</p>	<p>◎各模試に対して、目標を立て、それを達成するために、過去問の実施や、学習のアドバイスなどを行った。模試データの返却時には、やり直しの実施や、次の模試に対してどのように取り組むのかを示させた。Aゾーンは学年で35%止まりであった。</p> <p>*来年度は個人指導で強化する。</p>
	35点未満者指導の充実、個別指導での学力向上	仰星コース 第3学年	<p>○1学期35点未満者に対する特別指導で、課題の進捗状況を担任が把握し、35点未満者テストに合格させる。</p> <p>○定期テスト前後に担任が生徒との個別面談を実施し、学習状況の把握や志望校に対応した教科別ノート添削指導の助言をする。</p> <p>《合格率100%》</p>	<p>◎1学期35点未満者に対して与えられた課題の進捗状況を7月末までに担任が確認した。</p> <p>◎模擬試験の成績データが返却された時点で個人面談を実施し、添削指導などを助言し、各教科にも依頼した。</p> <p>1学期35点未満者テストは延べ14名が受験し12名が合格。合格率は85.7%であった。</p> <p>*推薦入試やAO入試に対応するため、進路指導部とも連携しながら小論文指導や面接指導の充実を図る。</p>
	Dゾーン生徒の減少	学習指導部	<p>○生徒の学習時間の増加とテストに臨む姿勢の改善を促すための学習指導や面談に活用するため、</p> <p>①教科主任や担任に実力テストの結果を提示する。</p> <p>②定期テストや実力テスト結果の分析を中心とした「学習進路だより」を1・2年生は年8回、3年生は年6回発行する。</p> <p>③(学習意欲を高めるために)学習指導においてタブレットやプロジェクトを積極的に活用し、「わかる授業」が展開されるように教科担当に働きかける。</p> <p>《国教英Dゾーン60%未満》</p>	<p>◎4月スタディーサポートDゾーン 1年:40.3% 2年:62.7% 3年:68.2%</p> <p>9月スタディーサポートDゾーン 1年:36.3% 2年:58.9%</p> <p>①に関しては、教科主任には教科主任会で結果を提示した。学級担任には、結果返却時に分析の機会を設け、LHRでの返却時に細かく指導してもらった。</p> <p>②に関しては、進路指導部と共同で計画通り発行した。</p> <p>③に関しては、教科主任会で主任を通じて各教科に働きかけた。様々な形で活用いただいている。</p> <p>*①実力テストの意義を今まで以上に指導するとともに、事前学習と受験後の分析と学習を一層しっかり行うように指導する。</p> <p>②今後も進路指導部と共同し、内容についてもよりよいものになるように検討していく。</p> <p>③全学年タブレット・プロジェクトが使用可能になるので、各教科会で学習指導の中での活用の工夫を検討し、指導法を共有してもらうように働きかける。</p>
	職員研修への参加と利活用	教育研究部	<p>○学力向上に向けた取組を含む内外研修会についての情報収集を進め、紹介する。</p> <p>○教職員が研修会に参加して学んだことを授業に利活用し、指導力向上に繋げられるように環境を整える。</p> <p>《85%以上の教職員が内外研修会の内容を授業等の教育活動に利活用できた。》</p>	<p>◎現職研修アンケート(1月6日実施)の結果、「参加した研修が教育活動に役立った」と感じた職員は研修参加者の85.7%(昨年比+2.4%)であった。また、第4回の内部研修会参加者は職員全体の80.0%(昨年比-7.5%)であった。</p> <p>*今後の内部研修会は、可能な限り全職員が出席でき、日常的教育活動に役立つよう計画する。</p>
	学習習慣の定着・改善	仰星コース 学習指導部	<p>○GTZ等の改善のために、生徒に家庭学習の習慣化と定期テストの振り返りを奨励する。</p> <p>○各学級担任による生徒の学習時間の管理及び生徒面談等の指導を行う。</p> <p>《80%以上の生徒がテスト成績から普段の学習の振り返りができ、学習時間が増加した。》</p>	<p>◎1、2年生では「定期テストの振り返シート」を利用し、全員に学習を振り返らせた。</p> <p>◎学期毎に生徒面談を進め、9月の調査では、平日の学習時間は、1年、2年とも概ね2時間であった。面談で進路目標の達成に向けて授業の予習・復習を励行するなど、学習量を増やす指導を行った。</p> <p>*進路・学習指導の充実のためには、生徒一人一人の面談の回数がいかに増やすかが課題である。</p>
	35点未満者指導の充実	仰星コース 学習指導部	<p>○35点未満者全体指導で対象の生徒に講話し、特別指導・テストを真剣に受けさせ、学力をつけてテストに合格するよう強く指導する。</p> <p>○学習指導を通じて、学習習慣付けをする。(学習指導部、指導担当者)</p> <p>《2学期の35点未満者を1学期の80%以下にする。》</p>	<p>◎1学期の全体指導で基礎基本を確実に身に付けるよう指導し、教科担任により丁寧な指導を行った。2学期の35点未満者は、1年では1学期の78.5%に減少した。</p> <p>*2年の35点未満者は1学期とほぼ同数で、特別指導とともに普段の学習支援の改善を図りたい。</p> <p>◎長期休業前に「学習計画表」を全員に持たせて、計画的に課題などに取り組ませた。35点未満者の課題の未提出者は、1年、2年ともに2学期は0名となった。</p>
	スタディーサポートGTZの向上を意識した学習の徹底	仰星コース 進路指導部	<p>○日々の学習に漫然と取り組むのではなく、GTZを上げることに主眼を置き、不得意科目の学習等、常に自己点検させ甘さが出ないように注意喚起を行う。(進路指導部、担任)</p> <p>○すべての教員が生徒一人一人の成績を共有し、指導に生かす。学力向上に有効な指導を適宜行うために成績返却後に資料閲覧等、データ活用のための連絡を徹底する。</p> <p>○進路指導部・担任は定期的(年3回)に進路面談を実施する。</p> <p>《GTZで「A」以上の生徒が各学年50%以上》</p>	<p>◎GTZの向上と日々の学習を結びつけるような意識付けができはじめている。スタディーサポートや総合学力テストの事前学習も意欲的にできた。</p> <p>◎生徒一人一人の成績を、1年生はClassi、2～3年生は模試の成績一覧表や進路カルテで共有できるように配慮した。</p> <p>◎公式の進路面談は、クラス担任を通じて2回/年(4月・10月)実施した。成績不良者・部活動参加者を対象に進路主任・教頭による面談指導を行った。3年生の進路指導は必要に応じて適宜行った。GTZでA以上の生徒は、1年が20%、2年が36%、3年が10%でいずれも達成できなかった。</p>
	全統模試のレベルを意識した学習の徹底	進路指導部	<p>○生徒の進路実現のために、毎日の学習において到達目標を全国模試のレベルに設定させ、常に自己点検して甘さが出ないように注意喚起を行う。(担任)</p> <p>○模試出題範囲の確認と過去問の点検を通じて出題ポイントの分析と難易度把握に努めさせ、受験後には見直しを徹底させて学力の定着を図る。(進路指導部、教科担当、担任)</p> <p>○授業で受け身にならないためにも、模試範囲を学習のペースメーカーにさせる。(進路指導部、教科担当)</p> <p>《目標大学の合格判定「C」以上の生徒が各学年30%以上》</p>	<p>◎進路目標が定まっている生徒が多いが、一部定まらない生徒もいる。後者に対しては、多くの職業を提示し、消去法で自分の指向性を捉えさせ、進路目標の指標とさせた。</p> <p>◎模試の1ヶ月前には、出題範囲と時間割を教室掲載するとともに過去問を置き、出題の傾向と難易度を把握させた。</p> <p>◎各種模擬試験のテスト範囲および時間割を職員室にも掲示し、模擬試験の範囲を意識して授業進度を調節するよう周知徹底した。目標大学の合格判定C以上の生徒は、1年該当模試なし、2年16%、3年が14%でいずれも達成できなかった。</p>

III アクティ ブ・ラー ニングの 推進	アクティブ・ラーニングの理解とその取組	教育研究部	○教職員が教授法としてのアクティブ・ラーニングを「主体的・対話的で深い学び」として理解できるよう、内外研修会を企画または紹介する。 ○アクティブ・ラーニングの取組を実践できるように環境を整える。 《アクティブ・ラーニングを理解し、実際に取り入れることができた教職員が65%以上》	◎現職研修アンケート(1月6日実施)の結果、「今年度、アクティブ・ラーニングやICTなどを、実際に授業に取り入れた」職員は研修参加者の76.7%(昨年比+33.6%)であった。特に昨年度末からICT機器の導入が始まり、その活用とともに、現職研修を利用したアクティブ・ラーニングの理解とその実践の広がりを少しずつ推進できた。 * 職員の授業改善への取組をさらに支援したい。
	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の増加	仰星コース 学習指導部	○単元の始めに学習の動機付けとして、また、展開の場面で学習の深化を図るためとして、アクティブ・ラーニングを授業に取り入れる。 ○教員研修を実施する。 《70%以上の教員が取り入れる》	◎単元の始めに導入として授業にアクティブ・ラーニングを取り入れた教員は61.5%で、学習の深化を図るために取り入れた教員は84.6%であった。結果として、70%以上の教員が取り入れることができた。 ◎授業公開の参観を通じて授業改善に向けた課題を共有し、教員研修とした。 * 授業公開とは別に授業研修を設ける必要がある。
IV のH 推活S 進動G	SGH活動による学力の向上	仰星コース 第1学年	○SGHに関わる授業での生徒の活動を担任が支援する。 ○SGH活動についての評価基準を設定して評価する。 《アジア学の探究活動で満足のいく提言ができたという自己評価の生徒が8割以上》	◎SGH探究学習の指導において、iPadの利用の仕方を指導し、生徒が主体的に調べ、考察して探究発表の準備をすることができた。また、探究活動発表に向けて、生徒に評価の観点を示し、生徒が意識して発表内容を形作ることができた。(自己評価満足80%以上) * 今後、年度末に向けて、客観的な観点での自己評価がさらに上がるように助言をして指導を進める。
V 活交 性流 国化 の際	姉妹校提携の推進	庶務部	○日本の高等学校と関わりのあるオーストラリアの高校に連絡を取り、交流を打診する。お互いの利害関係が一致すれば、交流をはじめめる。 《年度内に校姉妹校提携を進める》	◎本校とマウント・クリア・カレッジ校は、2015年8月19日に姉妹校提携を行っている。しかしながら、それ以降の交流は皆無であったため、今年度より短期留学を企画し、訪問を実施した。(平成30年3月20日～4月1日の実施) 13名が参加したが1年生の普通コースからの希望者が多かった。夏のアメリカ短期留学と共に、春のオーストラリア短期留学を定着させ、本校の建学の精神の具現化を目指していく。
VI 特別 活動 の活 性化	外庭除草の励行	教育相談部	○校内の環境整備を目標に、外庭の草取りをする雰囲気を作り出すために花壇の整備をおこなう。 《トンネル横の空き地の40%を花壇として使用できる状態にする》	◎毎日の外庭の掃除担当が2号館の花壇・トンネル横の空き地の草取りを行っており、花壇として整備した。また、夏季にはマリゴールド等を植えて掃除担当を中心に水やり等の世話をを行った。冬季は本館南側外庭を花壇として整備し、パンジー等を植え1・2年生各クラスの草花を育てる係が面倒をみている。
	ボランティア清掃の実施	庶務部	○ボランティア清掃の意義・目的を周知し、参加者を募る。 《延べ参加者 生徒800名以上、教職員40名以上》	◎今年度は雨天になることが多く、目標の参加人数には至っていない。しかしながら、雨天で中止になっても、後日自主的に清掃活動をする部活動が複数あり、ボランティア清掃の意義・目的が浸透している。 延べ参加者 生徒850名、教職員66名 * 来年度は日程を定めた運営ではなく、各団体(部活動・クラス・職員)が自主的に進めるよう改善していき、それへの声かけを積極的に行っていく。
	部活動運営の把握と管理	部活動支援室	○各クラブの活動計画に基づいて現状を把握し、運営・管理を徹底することに努める。また、安全管理のための施設整備に努める。 ○各種大会日程や結果を広報し、部活動の活躍を応援する。また、全国大会出場に向けての環境づくりと支援を目指す。 《全国大会出場(総体・国体・選抜)18クラブ以上》	◎クラブの活動調査を行い、クラブ活動一覧表及び年間の各種大会日程一覧表を作成した。 * 施設の安全管理について聞き取り調査を行ったが、整備・改善には至らなかったため、予算化を行う。 ◎各種大会案内及び大会結果を掲示板に広報した。 ◎野球及びバレーボールの大会には、多くのクラブと生徒の協力を得て、応援団を結成した。 ◎全国大会出場クラブ数は16クラブ(総体8、国体3、選抜5)で目標には届かなかったが、多くのクラブがその他の各種大会で活躍した。
強化クラブの運営	部活動支援室	○「スポーツの星城」をより推進するための計画を立案し、入試広報部との連携に努める。 《奨学生採用枠以内の生徒募集》	◎強化クラブ顧問と入試広報部の連携したスカウト活動を行うことができた。 * 「スポーツの星城」の活性化とアスリート特進生徒の確保について、奨学生採用枠などの見直しを行う。	
VII 安全・健康の保持増進	通学マナー・モラルの向上と交通事故防止	生徒指導部	○自転車通学者指導や交通講話を行い、事故予防及び交通ルール遵守などの安全教育を進める。 ○朝の交通指導や登下校指導により、通学路の遵守と通学マナー・モラルの向上を図る。 ○交通事故や校外からの苦情を生徒に伝えて注意を促し、交通安全意識を高める。 《交通事故ゼロを目指す。》(26年度19件、27年度13件、28年度12件) 《苦情は20件以内》(26年度31件、27年度27件、28年度29件)	◎朝の交通指導や登下校指導を強化し、通学路の徹底やマナー指導にあたった。しかし、電車内マナーや自転車通学者に対する苦情が多くあった。苦情件数は30件(自転車11件、電車内6件、通学マナー5、男女4件、コンビニ1件、バス内1件、マクドナルド2件)であった。 STや集会等で生徒に注意を促して交通安全意識やマナー・モラルの向上を図った。 * 生徒に対して、交通ルールの遵守やマナー・モラルの向上を継続的に進めていく。 ◎交通講話を3/8に実施した。 ◎交通事故15件(1年4件、2年7件、3年4件)うち10件が自転車と自動車との接触であり、自転車通学者指導の強化や事故対応も指導しなければならない。重篤な事故には至っていない。
	不登校生徒の登校への取組の充実	教育相談部	○スクールカウンセラー・担任・学年主任・教育相談部が連携を図り、不登校生徒が少しでも学校に来られるように支援をおこなう。 《不登校生徒の2割以上の生徒が登校できる》	1年生で、中学時に欠席日数が10日以上以上の不登校傾向であった生徒のうち、3名は頑張って登校している。不登校でカウンセリングを受けた生徒は4名であった。
	各種検定の受検と合格	第2学年	○各種検定を積極的に受検させるとともに検定合格を目指す。 ①Classiで各種検定に関する情報を定期的に生徒に配信する。 ②検定対策アプリを生徒に紹介して検定合格に向けた学習をさせる。 《各種検定平均合格率が40%以上》	◎検定の申込時期には、Classiで毎朝配信する連絡事項の中に申込案内等載せて広報した。各種検定年間受検者延べ数は684名、英検合格者2級9名、準2級23名、3級10名、漢検合格者2級3名、準2級29名、3級9名、数検合格者2級1名、準2級14名、3級1名、ワープロ検定合格者準1級1名、2級3名、準2級8名、3級74名。 * 準2級にチャレンジする生徒がほとんどなので、合格率は低くなると思われる。学習教材やアプリなどの広報を充実させて、生徒の学習量を増やしていく必要がある。

VIII キャリア教育の推進	タブレットPCの活用	<p>○タブレットPCを朝学を中心とした学習活動で活用し、生徒の主体的な学びにつなげる。</p> <p>①1週間単位で朝学の科目を切り替えるように計画し、配信ミスや配信忘れが起きにくい環境をつくる。</p> <p>②朝学の問題を生徒実態や授業進捗を考慮して検討し、生徒の学力向上につなげる。</p> <p>《朝学設定日に100%利用》</p>	<p>◎朝学設定日にはタブレットを使用して学習させた。授業中での活用も徐々に増えてきた。修学旅行においても活用した。</p> <p>*生徒のタブレット使用については、不適切な使用や目的外使用が見受けられるので、担当部署などからの使い方の指導を充実させていく必要がある。</p>
	生徒の個性の尊重と能力・適性に応じた進路の決定	<p>◎第3学年職員が情報共有しながら、生徒一人一人の「吾は何をなすつつあるか」の自問自答を見極め、将来、社会で貢献・活躍できる大人になるための進路指導を行う。</p> <p>《進学未決定者6名以内、1次就職試験合格者100%》</p>	<p>◎生徒との面談に積極的に取り組み、学年会で情報共有を図った。また、職員室内でも、逐一情報共有をしながら、進路指導にあたった。</p> <p>◎星城大42名、国公立12名、私立大学260名合格した。平成29年10月学校幹旋1次就職試験、44名受験して40名合格 合格者90%以上達成</p>
	確かな学力の定着	<p>○特進担任会などで特進コース全体で数値目標を共有し、学習指導に当たる。</p> <p>《校外模試(ベネッセ)の平均点偏差値47以上》</p>	<p>◎特進担任会において、模試の結果について情報共有した。</p> <p>1年生1月記述 国数英総合 48.3 2年生1月記述 5教科理系55.5 5教科文系 45.5 3年生7月記述 5-7理系 43.3 5-8文系 46.6 *現3年生の1年11月記述の平均点偏差値は48.4、現2年生の1年1月記述の平均点偏差値は48.0であった。1年時の成績を維持させる手立てを考えなければならない。</p>
	星城大学進学者の増加	<p>○第3学年と進路指導部が一体となり、進路選択を迷っている生徒と面談を行い、内部AO・内部推薦の受験を促す。</p> <p>《内部AO・内部推薦入学者60名》</p>	<p>◎内部AO21名、内部推薦21名(内リハ5名)の計42名が星城大学への進学を決めている。</p> <p>*星城大学と同等レベルの大学を受験する生徒に対し、内部進学ではなく、一般入試受験を促し、受験者の確保に努める。</p>
	国公立大学・有名私立大合格者の増加	<p>○特進コース生徒全員が、大学入試センター試験は5教科型を受験する。</p> <p>《特進コース在籍生徒全員が5教科型で受験》</p> <p>○単に偏差値の高さだけにとらわれず、生徒個々の目標・能力に応じた指導を行い、合格実績を伸ばす。</p> <p>《国公立大学合格者10名・難関私立大合格者10名・南山大学合格者10名》</p>	<p>◎特進コース全員が5教科型で受験をした。出題内容に大学入学共通テストを見据えたものが加わり、それまでの校外模試の成績どおりの結果とはならなかったが、英語の平均点が6割を超えたことは高く評価できる。</p> <p>*生徒本人の進路希望が確たるものになるような学習指導・進路指導を確立しなければならない。</p> <p>3月31日現在 国公立大学12 南山大学8 愛大5 名城大9 中京大19 中央大2 早稲田1 東海大3 日大1</p>
	第一次就職内定率の向上	<p>○筆記試験や適性検査に備えた対策問題集を用いた学習会を、授業後に実施する。</p> <p>○面接対策として、個人・集団面接演習を就職希望生徒一人に10回以上実施する。</p> <p>《第一次就職内定率100%》</p>	<p>◎1学期の授業後に、希望者に対し履歴書の記入方法・試験対策問題の読解・模擬面接などを複数回実施した。履歴書などの記入については、清書段階で大変役立つ。</p> <p>◎面接練習は、1学期、夏休み、9月の試験直前と一人当たり10回近く練習でき、上達した生徒が多くみられた。</p> <p>*事前指導については一定の効果が得られたので、来年度も引き続き実施する。</p> <p>◎就職試験第一次において、43名受験し内定39名</p> <p>《第一次就職内定率90.7%》</p>
学外研究・教育機関の訪問・見学・体験と進路講話の充実	<p>◎社会で求められる能力や人材についての理解を深められるように、</p> <p>①ベネッセや河合塾による進路説明会や社会で活躍する卒業生による講演会を行う。</p> <p>②分子研やJICAの見学、夢ナビプログラムやオープンキャンパスに参加させる。</p> <p>③イングリッシュキャンプや海外研修、海外修学旅行に参加させる。</p> <p>《実施後アンケートで各学年80%以上の生徒が各取組の意義を実感》</p>	<p>◎キャリア教育として学年別に次のことを実施した。</p> <p>①ベネッセの進路講話、3年(6/14実施)は「大学受験に向けての心構え」、2年(10/18実施)は「国公立大・私立大の特徴と受験準備」、1年(9/27実施)は「職業観と文理選択」についての講話を行った。アンケート調査では80%以上の生徒がためになったとの回答した。</p> <p>②2年生生理系コースは岡崎の自然科学研究機構、2年生文系コースは名古屋大学を訪問し、見学および研修を受けた。ともに80%以上の生徒が、将来の進路選択のためになったと回答した。</p> <p>◎希望制で夏期休業中にイングリッシュキャンプ・米国短期留学に参加し、冬期休業中にSGHシンガポール研修に参加した。国際交流・海外研修を通じて、交流を深め合い、グローバルなものの見方・考え方を身につけることができた。(実施後アンケートすべて有意義80%以上)</p>	
学校関係者の主な意見	<p>○校門の一礼、電車のマナーなど生徒指導をしているが、生徒はなぜ校門で一礼するのか、マナーや服装がどれだけ大事なかが分かっていないようである。勉強することやマナーが社会で生きていく時に力になることを教えていただきたい。</p> <p>○GTZのDゾーンが50%を切ったことは、教育の成果であり、評価はAに近いのではないかと。2年生もDゾーンが62.7%から58.9%に減少している、素晴らしいことである。</p> <p>○昨年度、1・2年生にタブレットを持たせ、教室の環境整備をしていただいた。保護者のアンケートを見るとICT活用は成功したと言える。</p> <p>○安全・健康の保持増進の生徒指導部の自己評価がCであることが気になる。苦情が多くあるようだが、学校としてマナーが確立されていないと学校自体が低評価になってしまう。一部の生徒の行動で、多くの生徒が不利になることが心配である。星城高校の生徒は、きちんとしていることが浸透すれば、C評価ではなくなる。</p>		